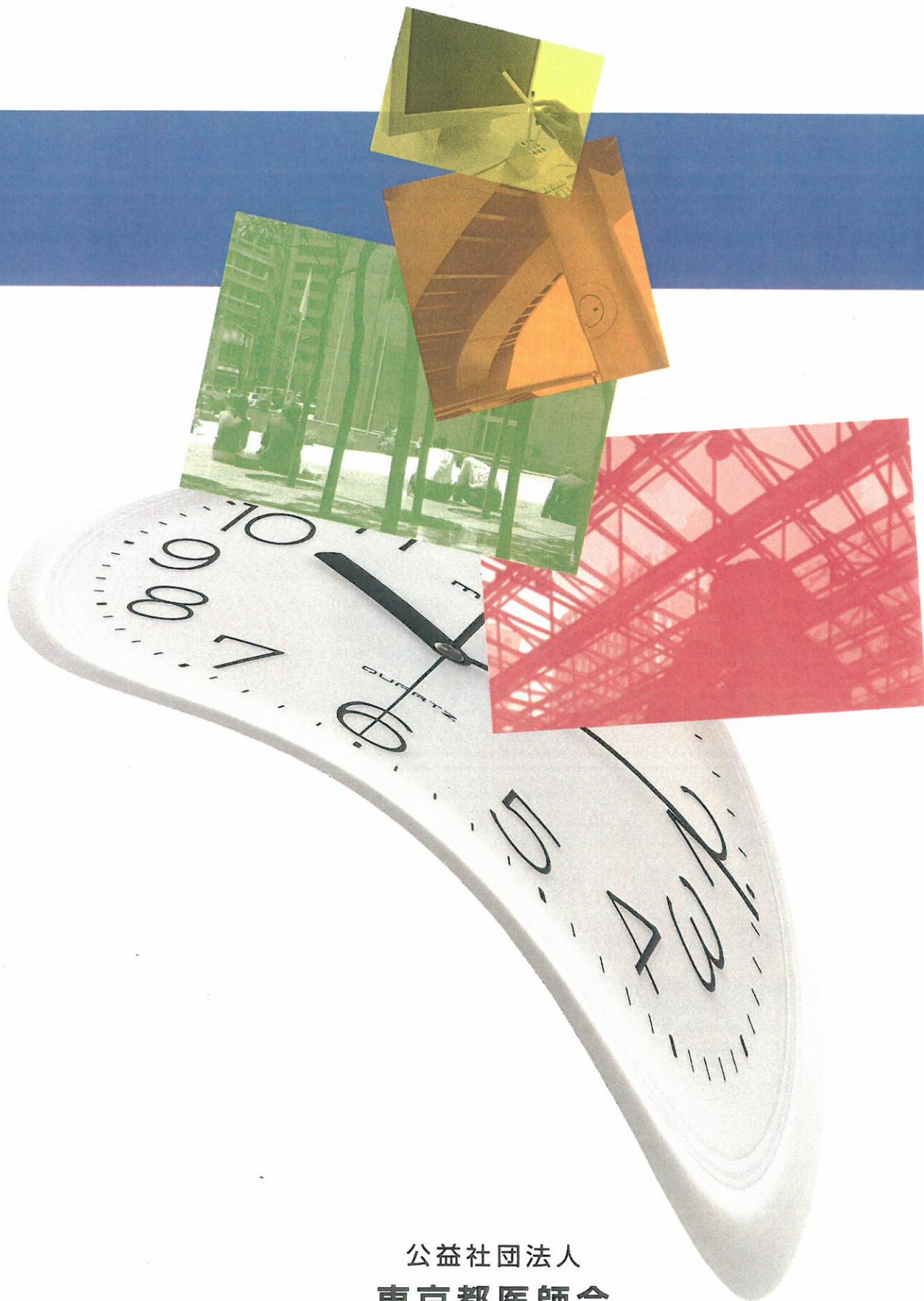


産業医の手引

平成29年3月(第9版)



公益社団法人
東京都医師会

4

高齢労働社会対応型の 労働適応能力評価手法 ～アクティブエイジングインデックス(AAI)～



1. 序にかえて ～日本の人口構造を知る

- ①全人口に占める高齢者(65歳以上)の割合が2013(平成25)年に25%を超えた。
- ②人口維持に必要な合計特殊出生率(1人の女性が一生のうちに出生する子どもの平均数)を観察すると、わが国は人口維持に必要な2.07を下回る数値を示し続けている。
- ③労働力の中核をなす生産年齢人口(15歳～

64歳)に目を転じると、1995(平成7)年には2.3人で1人の被扶養層を支えていればよかったのが、2015(平成27)年には1.5人で、次いで2050(平成62)年にはほぼ1人で支えなければならない時代が来ると予測されている。

2. 高齢労働対策への考え方

人口構造の変化を観察すると、日本は働かなければならない高齢者をつくる時代に突入したと結論づけられる。しかしながら、^{こよみ}暦年齢に基づく定年年齢の引き上げを行っても高齢労働社会日本が抱える問題は解決しない。解決策としては暦年齢を基準とした定年制度の廃止、それにともなう年金支給開始年齢の

見直しである。これを成し遂げるためには次の3点の取り組みが求められている。

- ①雇用の世界に現存する年齢差別を払拭する。
- ②暦年齢評価から労働者個々人のワークアビリティ(仕事の要求を成し遂げる労働者の労働能力=労働適応能力)評価に切り替える。
- ③ワークアビリティ評価手法を開発する。

3. 高齢労働と産業保健 ～ワークアビリティを物差しとする考え方

ワークアビリティの基本源泉は健康、労働意欲そして仕事の処理能力(知識・経験・技能)の3つである。

ワークアビリティの評価は、加齢にともなう生体諸機能の減衰、更には健康被害の度合いが現在・未来の労働能力に及ぼす影響、更には現在の職務・組織に対する適応度を推定

することから始まる。それゆえに産業保健の力が不可欠となる。

高齢労働社会は、産業医が従来からの労働安全・衛生への介入のみならず、職業安定行政が所管している雇用開発の世界にまで踏み込まなければならない時代へ突入したといえる。

4. アクティブ・エイジングとプロダクティブ・エイジング

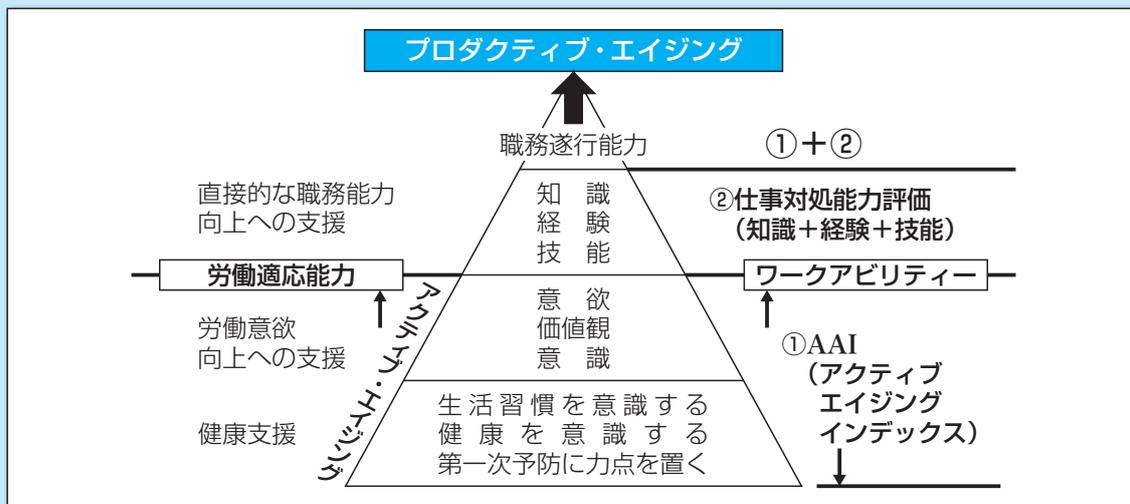
国際長寿センター創設者のR. Butlerは1975(昭和50)年に、高齢者は生産的・創造的な活動に寄与するべきであるという考えに基づいてプロダクティブ・エイジング(生産的高齢者)を提唱した。一方、WHOは2002(平成14)年に「人々が歳を重ねても生活の質が向上するように、健康、参加、安全の機会を最適化するプロセス」をアクティブ・エイジングと定めた。産業保健の世界では主たる対象者が労働者である。したがって、アクティブ・エイジングの対象を活力ある高齢労働者、同様にして、プロダクティブ・エイジングを生産的高年齢労働者と定めて用いると便利である。

プロダクティブ・エイジング(生産的高年齢労働者)はアクティブ・エイジング(活力ある高年齢労働者)を土台として生まれる。アクティブ・エイジングづくりとは、広義の健康資源(体力、ストレス耐性、社会的対処能力を含む)の確保とそれを基盤とした労働意欲の確保である。そこには健康寿命の延伸策

と労働寿命の延伸策が混在する。図1はアクティブ・エイジングとプロダクティブ・エイジングとの関係を示したものである。プロダクティブ・エイジングをつくり上げるにはアクティブ・エイジングづくりが鍵となる。活力ある高年齢労働者が得られたら、次の段階として、高い職務遂行能力を有する高年齢労働者をより沢山輩出できるプロダクティブ・エイジング労働社会づくりを目指さねばならない。

これを成し得るための基本対策は毎日元気に職場に来て仕事ができる能力、すなわち、個々の労働者の健康度、生活機能、更には労働意欲・態度であり、それらを客観的に評価する指標(労働適応能力評価法)の開発である。これを用いて高年齢労働者の職務遂行能力と仕事とのミスマッチを防ぐことが究極の産業保健対策となり、その結果として労働寿命の延伸が図られる。そして、この重要な任務がこれからの産業保健の主要な役割となる。

図1 産業保健におけるアクティブ・エイジングとプロダクティブ・エイジング



5. アクティブエイジングインデックス (AAI)

高齢労働社会に対応した労働適応能力評価法～アクティブエイジングインデックス(以下「AAI」)～が著者らによって開発された^{注1)}。

AAIは4回の試行調査を行い、それぞれに

ついてクロンバックの α 係数(信頼性)が0.8を超え良好な結果を示したことが確認されている。AAIを構成する因子は次の4つである。

- ①身体機能(体力/Physical Function) ————— 6項目
- ②精神的許容能力と回復力
(ストレス耐性/Mental Capacity and Recovery) — 4項目
- ③社会的な対処能力(環境適応力/Social Skill) ———— 3項目
- ④働く意欲(意欲・態度/Work Motivation) ————— 4項目

質問項目はこれら4つの因子に関する17項目と生活習慣、雇用形態、勤務形態、作業の強度、主として行う業務の内容などの6項目を加えた計23項目の質問紙法である。4つの因子それぞれを偏差値で示し、労働寿命延伸への対策が講じやすいように工夫されている。4つの因子の総合評価として「労働寿命」がもっとも長いSからA、B、Cに至るまでの4段階で評価されている。4段階評価の基準は算出された労働余命(年)の推定値が用いられている。例えば、労働余命が17年未満と算出さ

れるとC評価となる。

もうひとつの特徴として、4因子×4段階のすべての組み合わせ(256通り)について対処へのアドバイスがそれぞれ設けられている点である。また、4回にわたるAAI試行調査結果を用いて健康と労働意欲との関係を検討した結果、健康だから労働意欲が高いのではなく、労働意欲が高いから健康を維持できるという関係が示唆された。すなわち、労働寿命の延伸を図ることが健康寿命の延伸につながると推測される。

アクティブエイジングインデックス(AAI)の質問項目

I. どちらか1つを選んでください (はい・いいえ)

- ①運動習慣がありますか(運動習慣とは「1回30分以上、週に2回以上、1年以上」継続している場合を言います)
- ②食事を1日3回ほど決まった時間に食べますか
- ③毎日よく眠れますか

II. 「これまでで一番良いとき」を10点、「全くできない状態」を0点とすると現在のあなたは何点くらい?

- ④バランス能力(転びにくさ、ふらつきにくさ)
- ⑤筋力(力の入れやすさ)
- ⑥筋持久力(力を必要とする作業をしたときの疲れやすさ)
- ⑦持久力(階段を上った時などの楽しさ加減)
- ⑧柔軟性(身体の柔らかさ)
- ⑨敏しょう性(身体を動かす時の素早さ)

III. 「完全にあてはまる」を10点、「全くあてはまらない」を0点とすると現在のあなたは何点くらい?

- ⑩環境が変わってもすぐに適応できる
- ⑪物事の変化に対して柔軟に対応できる
- ⑫まわりの人たちとのあいだでトラブルが起きても、それを上手に処理できる

IV. 「強くそう思う (その通りだと思う)」を10点、「全く思わない」を0点とすると現在のあなたは何点くらい?

- ⑬仕事で自分自身を成長させると思う
- ⑭現在の給与に満足している
- ⑮今の仕事を続けたいと思う
- ⑯今の仕事は自分にあっていると思う

V. 「完全にあてはまる」を10点、「全くあてはまらない」を0点とすると現在のあなたは何点くらい?

- ⑰仕事の疲れが次の日までとれないことがある
- ⑱仕事に疲れてしまって、身体的に作業を続けることが難しくなることがある
- ⑲仕事で困難に直面したとき、そのことが頭から離れなくなることが多い

※この他、「雇用形態」「勤務形態」「作業の強度」「主として行う業務の内容」をフェイスシートで訊ねています。

労働寿命の評価

S評価	トップクラスです。素晴らしいです。あなたは周囲にとってお手本のような方ではないでしょうか。
A評価	平均を上回っています。このまま維持・向上を図っていただくと、将来にわたって元気に働ける可能性が高まります。
B評価	あなたはできるだけ早期に対策を取る必要があります。このままでは将来の仕事に支障をきたす可能性があります。
C評価	あなたはただちに対策を取る必要があります。このままでは将来の仕事に重大な支障をきたす可能性があります。

ニホン タロウ 日本 太郎1400 様 〒800-8888 福岡県博多市羽形区泊湯一三三四五六七八九	団体ID 654321-80088880 所属コード 所 属 個人コード 100001400 分類区分4 11 協会ID 10001400	SP1 2016年09月07日 にご回答いただきました「アクティブエイジングインデックス」の結果をお知らせいたします。 一般財団法人 日本予防医学協会 働く人の健康チェック Active Aging Index アクティブエイジングインデックス 個人レポート
--	--	---

労働寿命 <small>(S・A・B・Cの4段階)</small>	A 評価
---	-------------

平均を上回っています。このまま維持・向上を図っていただくと、将来にわたって元気に働ける可能性が高まります。「精神的許容能力と回復力」はとても高く、エクセレントです！一方「社会的な対処能力」はかなり低いです。「挨拶に笑顔をつまみこむ」「自分の感情をコントロールする」など、すでに実行中でしょうか？

「働く力」は3階の「プロダクティブエイジング」と2階・1階の「アクティブエイジング」で構成されていて、3階の「仕事の能力」を発揮するために1階の「健康」とその上の2階に「意欲」があることを示しています

3階

仕事の能力

※今回、仕事の能力は測っていません。

以下の値はすべて偏差値(50が平均)です

2階	働く意欲 <small>(work motivation)</small>	54
	身体機能 <small>(physical function)</small>	40
1階	精神的許容能力と回復力 <small>(mental capacity and recovery)</small>	67
	社会的な対処能力 <small>(social skill)</small>	37

次頁にヒント集があります

©2016日本予防医学協会【無断複写・複製・翻訳・転載を禁じます】

注1) アクティブエイジングインデックスは(一財)日本予防医学協会内に設置された「労働適応能力評価法(AAI)研究開発会議」において開発された。メンバーは研究者、産業医、実務家から構成された。青山知高<トヨタ自動車株式会社>、泉博之<産業医科大学>、太田雅規<福岡女子大学>、奥田史恵<日本予防医学協会>、神代雅晴<日本予防医学協会>、谷直道<日本予防医学協会>、徳弘雅哉<淳風会健康管理センター>、西本恵子<日本予防医学協会>、野海朱美<日本予防医学協会>、野田昇<日本予防医学協会>、橋本誠<日本予防医学協会>、樋口善之<福岡教育大学>、師岡彰<日本予防医学協会>、横田直行<三井化学株式会社>(50音順)

(神代 雅晴・くましろ まさはる)